

報告タイトル

「清末上海金融市場の勃興期における山西票号の金融活動について
—『日昇昌』票号の金融ネットワークを中心に—

A Study About the Financial Activity of ShanXi Piaohao During the Rise Peroid of Shanghai's Financial Market in Late Qing Dynasty -- Focusing on the Economic Network of Rishengchang Piaohao

氏名(所属)

孫盈盈 (大阪産業大学)

SUN YINGYING(Osaka Sangyo University)

要旨(800字程度)

アヘン戦争後の上海は、国内外貿易が急伸し、多くの金融機関が進出した。また国内外市場を結ぶ中継地として、貿易の集中に伴い金融センターの地位を築けた。1860年代には、山西票号が上海に進出し、上海を中心とする各省との地域間経済関係を築き、山西票号が本来持つ広域ネットワークを加えて上海金融市場の決済機能を大きく強化した。山西票号は地域間の商品流通や資金融通を通じて、清末から近代にかけて巨大な商業資本を蓄積し、国内商業と金融活動に大きな影響をもつ商人グループである。したがって、本研究は中国の近代化過程における伝統的金融機関の役割を究明することを課題とする。

本研究は、まず、開港前後から清末にかけて上海の発展史を整理しつつ、上海金融市場の勃興期における金融機関の変遷と金融業務の変容、さらに国内外の商業・貿易との関連性を検討する。

そして、山西票号の先頭となる「日昇昌票号」を事例として、その為替取引事業に焦点を当てて、営業拠点の地域分布と組織構造および業務特徴を考察する。さらに、山西票号は商人時期の商業拠点を生かし、急拡張を実現し、短期間に全国的な金融ネットワークを構築した。

次に、山西票号が上海金融市場に参入したことによって、上海金融市場では新たな発展を迎え、外国銀行、銭荘、山西票号との間には相互の取引関係が形成された。本研究では、それに基づく上海と内陸都市の取引過程にかかわるメカニズムを考察する。また、「日昇昌票号」の経営文書の分析を踏まえて、清末上海金融市場で活躍した分号(支店)の経営実態を把握する。山西票号の盛んな資金融通と主要業務の推移などが上海金融市場の発展と深くかかわることを明らかにする。

最後に、以上の研究から上海金融市場の勃興期において、山西票号が果たした重要な役割を再検討する。